

第6 平成18～19年中に発生した 主な災害・事故について

1 平成18年豪雪について

(1) 概 要

平成17年12月から平成18年1月上旬にかけて、日本各地で低温になるとともに、日本海側を中心に大雪となり、また、1月中旬以降も日本海側の山沿いを中心に大雪となる日がたびたびあった。気象庁が積雪を観測している339地点のうち23地点で積雪の最大記録を更新し、また、12月としての最大記録を106地点で、1月としての最大記録を54地点で、2月としての最大記録を18地点で、3月としての最大記録を4地点で、4月としての最大記録を17地点で更新した。

気象庁が「平成18年豪雪」と命名したこの大雪の影響により、屋根の雪下ろしなどの除雪作業中の事故や家屋の倒壊等が多発し、昭和56年に並ぶ戦後2番目の記録となる152名の死者となった。

平成18年豪雪による152名の死者のうち、65歳以上の高齢者が99名と約3分の2を、また、屋根の雪下ろしなどの除雪作業中の死者が113名と約4分の3を占めている。さらに、除雪作業中の死者113名のうち65歳以上の高齢者は76名となっている。

(2) 被害状況（平成18年消防白書より）

人的被害：死者152名、負傷者2,145名

住家被害：全壊18棟、半壊28棟、一部損壊4,667棟 など

(3) 石川県内における被害状況

① 人的被害の状況

ア 死者 6名

- ・雪の重みで家屋が倒壊し生き埋め（白山市2名）
- ・屋根の雪降ろし作業中の事故（白山市1名、津幡町1名、能登町1名）
- ・除雪作業中の事故（能登町1名）

イ 重傷 11名

白山市（9名）、輪島市（1名）、羽咋市（1名）

ウ 軽傷 13名

金沢市（2名）、小松市（1名）、輪島市（1名）、白山市（7名）、穴水町（2名）

② 住家被害の状況

エ 全 壊 1棟

白山市左礫地内（1/5 雪の重みで家屋倒壊）

オ 半 壊 なし

カ 一部損壊 3棟

内灘町（1棟）、津幡町（2棟）

キ 床上浸水 1棟
金沢市（1棟）

ク 床下浸水 6棟
金沢市（6棟）

③ 非住家被害の状況 28棟
金沢市（6棟）、七尾市（4棟）、輪島市（3棟）、加賀市（3棟）、白山市（2棟）、
能美市（1棟）、津幡町（1棟）、内灘町（1棟）、宝達志水町（2棟）、中能登町（4棟）、
穴水町（1棟）

④ 雪害対策本部の設置状況
津幡町（12/19 9:30設置 12/26 10:00解除）
白山市（1/6 11:00設置 2/28 16:00解除）

2 平成18年6月から7月にかけての豪雨について

(1) 概要

平成18年は、6月5日の沖縄県の大雨から始まり、6月26日から7月2日にかけての九州地方を中心とする梅雨前線による集中豪雨、7月15日から24日にかけての西日本を中心とする集中豪雨（気象庁は「平成18年7月豪雨」と命名）、全国各地に甚大な被害をもたらした。

特に、「平成18年7月豪雨」と命名された豪雨災害では、7月15日から24日にかけて、活動が活発化した梅雨前線が本州から九州にかけて停滞し、九州、山陰、北陸、長野県などで記録的な大雨となった。このうち15日～18日、23日ごろにかけては山陰、北陸、長野県、19日から23日ごろにかけては九州が雨の中心となった。

7月15日から24日の総雨量が、宮崎県えびの市で1,281mm、鹿児島県さつま町紫尾山で1,264mmとなるなど、年間降水量の3分の1に達するほどの雨が降った。

九州の多数の観測地点で、雨量が観測史上最多を更新した。

九州南部の国見山地、出水山地、霧島山周辺で特に降水量が多く、この付近は7月15日から24日の降水量がおおむね700mmを超えた。

(2) 被害状況（平成19年消防白書より）

人的被害：死者32名、負傷者64名

住家被害：全壊313棟、半壊1,457棟、一部損壊368棟 など

(3) 石川県の被害状況

○7月12日から13日にかけての大雨

梅雨前線が北陸地方沿岸に停滞した影響で、県内は降り始めから13日朝方までに珠洲市や輪島市を中心に100mmを越える大雨となった。

この大雨で能登地方を中心に土砂崩れや住家の床下浸水等が発生した。特に能登町では住家5棟と非住家2棟に床下浸水があり、がけ崩れが輪島市で3箇所、珠洲市で2箇所、能登町で1箇所発生し、輪島市光浦町では落石による店舗の一部損壊があった。

○7月15日から19日にかけての大雨

日本海から北陸にのびる梅雨前線の活動が活発となり、強い雨雲が北陸地方に次々と流れ込み能登北部や加賀南部を中心に大雨となった。

15日の朝には能登北部の輪島市や能登町で1時間に70mmを越える記録的短時間大雨を観測した。この影響で輪島市や能登町などで山、がけ崩れや浸水害が発生した。

その後、前線はゆっくり南下し、加賀南部では、16日宵のうちから17日の朝のうちまでに、100mmを越える大雨となった。加賀南部の小松市や加賀市では多数の床上、床下浸水が発生し、加賀市では各地区や町に避難勧告が出された。

梅雨前線は、17日には近畿から東海地方へ南下したため、雨は小康状態となったが、18日の夕方から再び北上し活動が活発化した。このため、加賀南部で19日朝までに150mmを越える大雨となった。この影響で、加賀南部の小松市や加賀市では再び浸水害や山、がけ崩れが発生し、避難勧告等が出された。

3 平成19年(2007年)能登半島地震について

(1) 概 要

平成19年3月25日9時42分頃、能登半島沖の北緯37度13分、東経136度41分、深さ約11km(輪島市門前町劔地沖合付近)を震源とするマグニチュード(以下Mと記述)6.9の地震が発生し、石川県能登地方を中心に七尾市、輪島市、穴水町で震度6強、志賀町、中能登町、能登町で震度6弱、珠洲市で震度5強、羽咋市、かほく市、宝達志水町で震度5弱を観測したほか、加賀地方でも震度4～3を観測した。

また、石川県以外でも、新潟県、富山県で震度5弱を観測したのをはじめ、北陸地方を中心に北海道から中国、四国地方にかけて震度5弱～1を観測した。

その後の余震活動は、この地震を本震とする本震－余震型で経過した。3月25日18時11分に本震後最大となるM5.3(最大震度5弱)の余震、更に26日7時16分にもM5.3(最大震度4)の余震が起こった。また、平成20年1月26日4時33分にもM4.8(最大震度5弱)の余震があった。

能登半島周辺では、過去に被害をもたらしたM6.0以上の地震が数回発生しているが、1600年以降、M7.0を超える地震は発生していないとみられ、今回の地震が最大規模のものと考えられる。

(2) 被害状況(総務省消防庁 災害情報より)

人的被害：死者1名、負傷者356名

住家被害：全壊686棟、半壊1,740棟、一部損壊26,958棟

(3) 石川県内における被害状況

① 人的被害の状況

ア 死者 1名

・自宅内で灯籠の下敷きになる。(輪島市1名)

イ 重傷 88名

七尾市(24名)、輪島市(46名)、志賀町(10名)、中能登町(3名)、穴水町(3名)、能登町(2名)

ウ 軽傷 250名

七尾市(103名)、輪島市(69名)、珠洲市(3名)、羽咋市(1名)、津幡町(1名)、志賀町(27名)、穴水町(36名)、能登町(10名)

② 住家被害の状況

エ 全 壊 686棟

七尾市(69棟)、輪島市(513棟)、羽咋市(3棟)、かほく市(3棟)、志賀町(15棟)、中能登町(3棟)、穴水町(79棟)、能登町(1棟)

オ 半 壊 1,740棟

七尾市(304棟)、輪島市(1,086棟)、羽咋市(13棟)、かほく市(2棟)、志賀町(215棟)、宝達志水町(3棟)、中能登町(7棟)、穴水町(100棟) 能登町(10棟)

カ 一部損壊 26,955棟

七尾市(7,296棟)、輪島市(9,988棟)、珠洲市(685棟)、加賀市(6棟)、羽咋市(142棟)、かほく市(18棟)、白山市(1棟)、津幡町(2棟)、志賀町(3,384棟)、宝達志水町(26棟)、中能登町(1,959棟)、穴水町(2,318棟) 能登町(1,130棟)

③ 非住家被害の状況 4,477棟

金沢市(16棟)、七尾市(350棟)、小松市(2棟)、輪島市(2,899棟)、珠洲市(23棟)、加賀市(6棟)、羽咋市(29棟)、かほく市(11棟)、白山市(7棟)、能見市(1棟)、津幡町(1棟)、志賀町(850棟)、宝達志水町(1棟)、中能登町(15棟)、穴水町(248棟)、能登町(18棟)

(4) 災害対策本部の設置状況

① 県災害対策本部

・ 石川県災害対策本部設置：平成19年 3月25日12：30

(同時刻、奥能登総合事務所(輪島市内)に現地災害対策本部設

・ 会議の開催状況 25日10：45 災害対策本部員等連絡会議 開催

25日12：30 災害対策本部員会議(第1回) 開催

25日21：15 災害対策本部員会議(第2回) 開催

26日 9：00 災害対策本部員会議(第3回) 開催

26日18：00 災害対策本部員会議(第4回) 開催

27日 9：15 災害対策本部員会議(第5回) 開催

27日18：00 災害対策本部員会議(第6回) 開催

28日 9：15 災害対策本部員会議(第7回) 開催

28日18：15 災害対策本部員会議(第8回) 開催

同日、現地災害対策本部を輪島市役所に移設し、輪島市災害対策本部との合同会議を開催(4月24日までに19回開催)

3月29日以降、4月16日まで災害対策本部員会議を毎日開催

4月24日17：00 災害対策本部員会議(第28回) 開催

同日、現地災害対策本部を撤収(合同会議解散)

・ 石川県災害対策本部解散：平成20年 6月 6日14：30

② 市町災害対策本部(3市4町)

七尾市 平成19年3月25日10：00(平成20年6月6日解散)

輪島市 25日10：10(平成20年6月6日解散)

珠洲市 25日10：00(4月25日解散)

志賀町 25日10：40(5月21日解散)

中能登町 25日10：10(4月27日解散)

穴水町 25日10：20(平成20年6月6日解散)

能登町 25日10：15(4月25日解散)

4 平成19年(2007年)新潟県中越沖地震について

(1) 概 要

平成19年7月16日10時13分、新潟県上中越沖の北緯37度33分、東経138度36分、深さ約17kmを震源とするマグニチュード(以下Mと記述)6.8の地震が発生し、新潟県長岡市、柏崎市、刈羽村と長野県飯綱町で震度6強、新潟県上越市、小千谷市、出雲崎町で震度6弱を観測したほか、北陸地方を中心に東北地方から近畿・中国地方にかけて震度5強～1を観測した。

地震活動は本震－余震型で推移し、余震活動は比較的低調で順調に減少した。本震の発震機構は、北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。最大余震は、16日15時37分に発生したM5.8(最大震度6弱)の地震であった。

(2) 被害状況(総務省消防庁 災害情報より)

人的被害：死者15名、負傷者2,346名

住家被害：全壊1,331棟、半壊5,704棟、一部損壊36,565棟

(3) 石川県における対応状況

① 緊急消防援助隊の派遣について

新潟県知事から消防庁長官に緊急消防援助隊の応援要請があったため、消防庁長官から石川県知事に対し、消防組織法第24条の3第1項に基づき、平成19年7月16日、石川県の緊急消防援助隊に対し、新潟県への出動の求めがあった。

7月16日～7月17日

・航空部隊：1隊4名(石川県消防防災航空隊)後方支援隊として陸上での支援

② 人的及び物資の支援について

石川県及び県内市町から、人的支援及び物資の支援を実施した。

ア 人的な支援

石川県及び県内市町から、平成19年7月16日～7月25日にかけて、延べ121名(県職員51名、市町職員70名)が新潟県における応急対策及び災害復旧などのために派遣された。

イ 物資の支援

石川県及び県内市町から、平成19年7月16日～7月19日にかけて、アルファー米(2,000食)や乾パン(2,000食)などの食糧及び飲料水、毛布(840枚)などの日用品、ブルーシート(1,050枚)などを救援物資として提供した。

5 平成19年に発生した風水害について

(1) 平成19年7月5日～7月17日 台風4号と梅雨前線による大雨と暴風

① 概要

7月9日09時にカロリン諸島近海で発生した台風第4号は、大型で非常に強い勢力に発達し、13日に沖縄本島の西海上を北上した。14日には九州に接近し、同14時過ぎに大型で強い勢力のまま鹿児島県大隅半島に上陸した。その後、勢力を弱めながら、15日にかけて四国から本州の南岸を東に進み、16日09時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。

台風の通過した沖縄地方、西日本の太平洋側と伊豆諸島では暴風となり、13日には沖縄県金武町金武(キン)で最大風速33m/s、14日は宮崎県日南市油津(アブラツ)で最大瞬間風速55.9m/sなど観測史上最大となった。また、沖縄本島近海から四国沖にかけては波の高さが10mを超える猛烈なしけとなり、沖縄本島や瀬戸内海の一部では高潮が発生した。

一方、九州付近では、台風発生前の7月1日から梅雨前線の活動が活発となった。6日から7日には九州地方の広い範囲と四国地方の一部で大雨となり、10日から12日には九州、近畿、東海地方の一部で大雨となった。台風が沖縄地方を通過した13日には、本州上に停滞する梅雨前線に向かって台風から暖かく湿った空気が流入し、西日本の太平洋側を中心に大雨となった。14日から16日は台風の通過に伴い西日本から東北南部の太平洋側の広い範囲で大雨となった。また、16日から17日にかけては、近畿地方で局地的な大雨があった。

② 被害状況(平成20年消防防災年報より)

人的被害：死者6名、行方不明者1名、負傷者79名

住家被害：全壊26棟、半壊26棟、一部損壊218棟、床上浸水420棟、床下浸水2,993棟

(2) 平成19年9月5日～9月9日 台風9号による大雨と暴風

① 概要

8月29日09時に南鳥島の南東海上で発生した台風第9号は、9月4日に小笠原諸島の北海上を西に進んだ後、6日には伊豆諸島の西海上を北上した。7日00時前に強い勢力で静岡県伊豆半島南部に上陸すると、徐々に勢力を弱めながら関東地方から東北地方を縦断し、8日01時前に北海道函館市付近に、03時半頃に北海道胆振支庁西部に再上陸した。台風は同日09時に石狩湾付近の海上で温帯低気圧に変わった。

この台風により、関東甲信地方から北海道にかけての各地と東海地方、北陸地方の一部で大雨となった。降り始めからの総雨量は、関東甲信地方と東海地方の一部で600mmを超え、東京都、埼玉県、群馬県では9月の月間平均雨量の2倍を超える記録的な大雨となった。24時間雨量は7日に静岡県伊豆市湯ヶ島(ユガシマ)で627mmとなるなど、東海地方の一部と関東甲信地方の各地で観測史上最大となった。また、東海地方から北海道の各地で暴風となり、台風の通過した小笠原諸島や伊豆諸島から北海道の太平洋では波の高さが6mを超える大しけとなった。

② 被害状況(平成20年消防防災年報より)

人的被害：死者1名、行方不明者2名、負傷者90名

住家被害：全壊11棟、半壊60棟、一部損壊830棟、床上浸水411棟、床下浸水1,309棟

(3) 平成19年9月15日～9月18日 秋雨前線による大雨

① 概要

日本海から東北付近に停滞した前線に、台風第11号周辺の暖かく湿った空気が流れ込んだため、9月15日から前線の活動が活発となり、18日には台風第11号から変わった低気圧が日本海の前線上を東に進み、秋田沖に達した。

このため、15日から18日にかけて東北北部を中心に記録的な大雨となり、この間の総雨量は岩手県花巻市豊沢（トヨサワ）で300mm、秋田県仙北市鎧畑（ヨロイバタ）で289mm、青森県新郷村戸来（ヘライ）で216mmなど、岩手県、秋田県、青森県の各地で9月の月間平均雨量を超えた。また、24時間雨量は岩手・秋田県内の合計23地点で観測史上最大となった。

② 被害状況（平成20年消防防災年報より）

人的被害：死者3名、行方不明者1名、負傷者5名

住家被害：全壊6棟、半壊226棟、一部損壊8棟、床上浸水390棟、床下浸水1,124棟